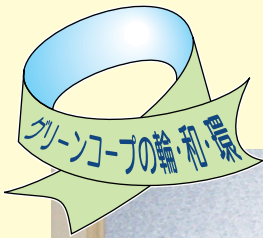




# 共生の時代

'12  
8月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 ヒューリック博多ビル3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



プロフィール  
1951年広島県生まれ。広島市在住  
夫、長女、長男、孫の5人家族  
グリーンコープ生協ひろしま組合員

## 難病と闘う人々の重荷を共に背負いたい

日本ALS協会広島県支部  
出張コンサート担当

浜岡 和子 さん

**「家」** 族の百分の一も千分の一もできないけれど、私もいつしよに支えたいという気持ちです。  
浜岡さんは、ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者の会「日本ALS協会広島支部」(以下、ALS協会広島)のボランティア会員。難病に苦しむ患者や家族に寄り添い、支え続けている。  
広島で被爆二世として生まれ育った。子育てをしながら反核の市民運動や原発運動にも参加。命と平和の大切さを強く感じてきた。娘の高校卒業を機に、47歳で看護学校に通い始め、2年後、准看護師の資格を取得。現在耳鼻咽喉科で非常勤の看護師として働いている。「ささやかでも、誰かの役に立ちたい」。いつもその思いが、浜岡さんを突き動かす。12年ほど前、友人の夫がALSを発症した際、何とか助けになりたい

とALS協会広島にかかわりだした。それ以来、その男性が亡くなった後も、活動を続けている。  
ALSは、進行すると全身の筋肉が萎縮して、さらに呼吸障害を引き起こし人工呼吸器を装着しなければ命にかかわる状態となる難病だ。有効な治療法はまだ確立されていない。「病気の不安と闘う患者や看病する家族に、少しでも心安らぐ時間を過ごしてもらいたい」とALS協会広島では、バイオリンなどの演奏家と呼ばれる。年に5回ほど病院や患者の自宅で出張コンサートを開催。浜岡さんはそのコーディネートも引き受けている。  
病院やベッドサイドでの演奏に、聴く人は涙を流して喜び晴れやかな顔になる。身体が全く動かなくなった人が、目だけで精一杯、感謝や喜びを伝えてくれる。「それはどんな言葉よりも

伝わってきます」と浜岡さん。患者さんは、私のほんの小さな力でしたことを喜んでくださいます。演奏を聴いて生きる力を取り戻した方もいらっしゃる。そのことに私自身も力をもらい、支えられているんです。  
ALSの発病を告げられた人は、その事実を受け入れることができず、ALS協会に入ることをためらうことが多いという。「まだまだSOSも発せずに苦しんでいる方や家族がおられます。一人でも多くの人とつながって、重い荷物を分かち合えれば」。浜岡さんは、支える手を少しでも広げたいと願っている。「みなさん難病をかかえながら、本当に前向きに頑張っておられます。その姿に命の輝きを感じるんです」。出張コンサートの名称は、「命かがやき隊」。浜岡さんの、やわらかな笑顔の向こうに、熱く強い意志が見えた。

## 2012年GMナタネ自生調査 全国報告集会 in 福岡



全国的なGMナタネの汚染の広がりが報告された  
4・5面に関連記事

## Contents

生産者の熱い想いに触れ 産直畜産物の素晴らしさを再認識!	2
うちのメーカー・うちの生産者② 産直青果生産者 御岳会	3
2012年GMナタネ自生調査全国報告集会in福岡 広がる遺伝子組み換えナタネ汚染 ～汚染を止めるのは市民の力～	4・5
さようなら原発10万人集会	6
(長崎)とみやざきでもはじまった 新しいお店共同購入	7

### 別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」

「夏ばてで食欲が」と言ってみるが、目の前に焼肉があればそんなことなどど吹く風。口いっぱい肉をほおばり、冷えたビールをぐいっと飲む気持ち良ささたら言いようもない。グリーンコープのお肉は美味しい。遺伝子組み換え作物を飼料に使わないなど、お勧めの点は数え切れないが、大声で言いたいのは本当に「うまい!」ということ。塩胡椒だけで味わってみたい。豚肉のジューシーさ脂の旨み、牛肉のま

### 送 信

ろやかさところける甘さ、鶏肉の歯ごたえと溢れる肉汁。卵の黄身を絡めればまた良い。想像すればうっとりする。だが、忘れてはならないのは口蹄疫や鳥インフルエンザの影響から立ち上がり始めたばかりだということ。生産者の皆さんを想い、さあ、召し上がれ。全ては組合員の私たちのために用意されているのだから。  
グリーンコープがこし生協理事長  
宍道 紀代美

### 産直若鶏学習会

## 部位をバランスよく利用することが大切

2012年度、はじめての地域組合員総会を3支部で開催しました。5月24日高槻支部の地域組合員総会では、産直若鶏生産者である(株)秋川牧園の米川和男さんをお迎えして、産直若鶏学習会を行いました。

グリーンコープ生協  
おおさか

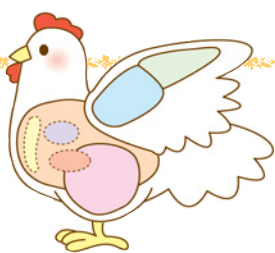
学習会では、産直若鶏の解体実演の後、飼育のようすを話していただきました。鶏の解体は初めて見る組合員が多く、米川さんが手早く切り分けていくように、感嘆の声が上がります。実際に部位ごとに取り外されていくように、部位バランスを実感することもできました。見せていただいた若鶏が食べている飼料は、グリーンコープのこだわりがぎっしりつまったものでした。参加者は生産現場の写真をしながら説明を聞いて、大切に、丁寧に育てられていることがよくわかりました。おたのしみの試食は部位



産直若鶏の丸体を解体する(株)秋川牧園の米川和男さん



試食会では生産者を囲んで、産直若鶏のおいしさを堪能した



# 生産者の熱い想いに触れ 産直畜産物の素晴らしさを 再認識!

2012年度方針「産直畜産物を食べて、日本の畜産と私たちの安心・安全な食べものを守りましょう!」について、各単協では、産地との交流や学習会などの取り組みが行われています。その中で、組合員は産直畜産物の生産にかける生産者の熱い想いに触れ、産直畜産物の素晴らしさを再認識するなど豊かに取り組みが進んでいるようすです。

今号では、おおさかの産直若鶏学習会とかごしまの産直国産牛・産直鹿児島黒毛和牛の産地視察交流について報告します。

### グリーンコープ がごしま生協

## 生産者の想いがひしひしと

2012年4月8日に、組合員13人、職員23人で、産直国産牛の生産者・薩州開拓農業協同組合と産直鹿児島黒毛和牛の生産者・大根占肉質検定牧場へ視察・交流を行いました。



大根占肉質検定牧場で産直鹿児島黒毛和牛の生産者を囲んで

薩州開拓農業協同組合  
(横川輝雄農場・池田畜産)  
鹿児島県鹿屋市串良町

2つの農場では、乳用牛の一種であるホルスタイン種の子牛を近隣の畜産農家から導入し、それぞれ400頭前後肥育されています。雄の子牛は生後4カ月までに去勢をし、段階に応じて哺育舎・育成舎・肥育舎と牛舎を分け肥育されています。屋外の哺育舎(ハッチ)もあり、太陽の当たる屋外で育てる方が病気になりにくいそうです。生産者から「配合飼料が未だに高い状況ではあるが、今回大幅値下げに踏み切った。正直経営的にきついが自信をもって育てた牛を多くの組合員に利用してもらいたい」と話されました。

(有)大根占肉質  
検定牧場  
鹿児島県肝属郡錦江町

この牧場では黒毛和牛650頭が肥育されており、導入される子牛の3分の2は肝属地区の繁殖農家から、3分の1は口永良部島で自然交配して生まれたものです。島では100頭程の母牛を放牧し繁殖させ、無理に太らせず草だけで育てているため、足腰が強く病気に強い牛に成長します。島で9ヵ月、牧場で約20ヵ月じっくり肥育し出荷されます。最初の構想では自然交配の子牛の比率を高めていく予定でしたが、景気が悪くなりコストも嵩み増やせなくなりました。生産者は「ここでは牛の飼育や肉質にこだわりを持って365日休まず一生懸命頑張っている。まずは食べてもらいたいおいしさを知ってもらいたい。そして私たちの想いをたくさん組合員に伝えて欲しい」と話されました。

今回の視察で生産者の方々が愛情を込めて大切に牛を育てられていること、また厳しい現状や生産者の想いをひしひしと感じました。グリーンコープのおいしい産直畜産物はグリーンコープでしか食べることができません。日本の畜産と私たちの安心・安全な食べものを守るために利用普及に繋げていかなければいけないと思いました。

組合員事務局 八田のし子

薩州開拓農業協同組合の横川輝雄農場の畜舎で子牛を見学しながら説明に耳を傾ける組合員

産直鹿児島黒毛和牛の畜舎の中で説明する生産者の野元寿郎さん



**うちの生産者**

122

熊本県上益城郡山都町 御岳会

**うちのメーカー**



山の傾斜地にある原田恒祐さんの圃場

# 御岳会

九州山地の懐、熊本県上益城郡山都町に御岳会はある。緑深い山々に囲まれた谷あいの畑には、高冷地を生かしたみずみずしいレタスやチンゲンサイなどが丁寧に育てられている。会の発足から30年、農業を使わずに野菜や米を作り続けている御岳会。会長の田上明さんやメンバーのみなさんに話を聞いた。

## 安全で安心なものを作る

立ち上げメンバーの一人であった原田種昭さんは「忘れもしません。1980年頃、熊本市で開催された『食と命を守る会』に参加し、農業や化学肥料が環境や生態系に与える影響などを知り、大きな衝撃を受けました」と話す。自身も当時盛んに推奨されていた農業を大量に使用した米作りで、皮膚に炎症を起こしている状況だった。以来農業は絶対に使わないと心に決めたとす。当時は無農薬で農業すると言ったら笑われよかったですよと原田種昭さん。御岳会ができたきっかけは、グリーンコープの前身生協からバレイショと里芋の出荷をしないかという声がかかったことからだ。原田種昭さんと3人の生産者で会を作って、取引を始めた。

現在の会長の田上さんは慣行農業をしていたが、20年ほど前にメンバーとなった。その後、有吉和子さんの「複合汚染」を読み、大きな影響を受けた。考えてみれば、農薬の被害を受けている生産者が身近にもいる。食べる人にとってももちろん、作る人にとっても安全である無農薬栽培の大切さを痛感したという。

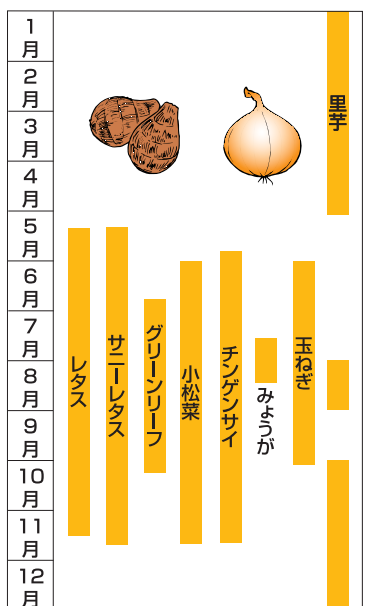
## 農薬を使わない栽培は、簡単にはできんとですよ

「無農薬栽培はともかく雑草と害虫との戦いです」と田上さん。御岳会では今年まで30年間試行錯誤を繰り返してきた。これまで虫害などで、まったく出荷できなかったことも度々あった。マルチ（農業用マルチフィルム）がなかったころは、雑草を防ぎようが無かった。家族総出で草取りの毎日。マルチを始めて少なくなりましたが、それでも草取りは大仕事だ。害虫対策としては、ハウス栽培や防虫ネットを張るなどさまざまに工夫しているが、完全に防ぐことは出来ない。「虫喰いはどのくらいまで、我慢してもらえないでしょうかね」と、穴の開いた小松菜の葉を手に入れた原田種昭さんはつぶやく。病気や連作障害を防ぐために、収穫後のハウス内の畑に覆いを被せ、太陽熱で温度を上げ土壌を殺菌することも行っている。こうした方法で、梅雨に入るまでは、受注に対して毎年ほぼ100%出荷できている。しかし、梅雨時期などの長雨には有効な手立てが無いのが現状。レタスなどは、病気に強くおいしい品種を選んで栽培しているが、長雨で傷んで出荷できなくなることも少なくない。「作付けもいろんな状況を考えながら、足らんことが無いように、多すぎて捨てるようなことが無いようにするのは、なかなか難しいです。それでも計画的な農業が出来るとはほんとにありがたい」と田上さん。

## 後継者を育てながら

「サラリーマンに限界を感じて、農業を継ごうと思

## 出荷品目と出荷時期



## 食べてくれる人の顔が見えることが大きな喜び

「この間、くまもとの組合員さんとしつかり話す機会がありました。組合員さんたちが、生産者の大変さを理解してくれていることが分かって嬉しかったです」と田上さんの妻千春さん。原田種昭さんも「この人たちが食べてくれるんだと分かると、いいかげんなものは作れない。もつとおいしい、いいものを作ろうと思う」と言う。



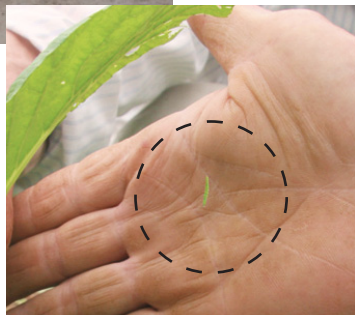
御岳会のメンバー。後列左から藤田洋一さん 堀豊生さん 上田潤一郎さん 原田恒祐さん 前列左から原田幸二さん 大隈美佐子さん 原田種昭さん 田上明さん (他に4人のメンバーがいる)



グリーンリーフの圃場。虫が強いので、ネットを張っているのは、白マルチ



ハチマキの覆っている土の右側は、太陽熱で殺菌している。チンゲンサイの圃場が敵は、太



小松菜にコナガの幼虫。これが増えなくなると出荷できなくなる

※地面を直接被覆し、雑草の抑制、地温の上昇を抑えたり、促したりすることや水分蒸発を防ぐなどのために使用されるポリエチレンなどのフィルム

御岳会のメンバーの農地は、谷あいの傾斜地にあるところも多く、決して好条件とはいえない。しかし、どの圃場も手入れが行き届き、メンバーの熱意がうかがえる。今後は、今まで以上にお互いの圃場を見て回り、学び合い、経験を共有していきたいと会では話している。

# ナタネ汚染 めるのは市民の力～

## タネ汚染調査 13カ所



報告集ではまず、遺伝子組み換え食品にならない！キャンペーン(以下、キャンペーン)代表の天笠啓祐さんが、8年目を迎えた活動を振り返り、「毎年新しい発見を積み重ねてきました。まさに継続は力です」と挨拶した。次に同じくキャンペーンの瀬美千世さんが2012年の調査結果概要について説明。34都道府県で789検体(2012年7月19日現在)を調査した結果、過去最多の121検体から陽性反応があり、岡山と広島で初めて検出されるなど、これまでにも増してGM汚染が広がっているように明らかになった。

各団体の調査報告では、グリーンコープ共同体からおおさかとおかがそれぞれ活動のようすを報告

現在世界で作付けされている遺伝子組み換え(以下、GM)作物は、主にナタネ、大豆、トウモロコシ、綿、パパイアの5種類。その栽培面積は世界の農地の10%を超えるまでとなりました。GM作物が栽培されていない日本でも、輸入したGM作物が荷揚げ港や輸送中にこぼれ落ちて自生が広がっています。特に食用油の原料であるナタネは、約8割をカナダ産のGMナタネに頼っていることもあり、日本各地で自生の拡大が見られます。

報告集ではまず、遺伝子組み換え食品にならない！キャンペーン(以下、キャンペーン)代表の天笠啓祐さんが、8年目を迎えた活動を振り返り、「毎年新しい発見を積み重ねてきました。まさに継続は力です」と挨拶した。次に同じくキャンペーンの瀬美千世さんが2012年の調査結果概要について説明。34都道府県で789検体(2012年7月19日現在)を調査した結果、過去最多の121検体から陽性反応があり、岡山と広島で初めて検出されるなど、これまでにも増してGM汚染が広がっているように明らかになった。

世界の食糧危機を救うという謳い文句とともに登場したGM作物だったが、除草剤をかけても枯れない雑草や、殺虫成分に耐性をもつ害虫が現れ、GMを推進する企業はさらに強力な毒性をもつ農薬を開発している。今後も市民による堅実な調査活動を継続してその輪を広げていくとともに、行政や企業に汚染防止を働きかけていくことが重要であると参加者全員が思いを一つにする集会となった。

2007年度から自主調査を行っている。調査しているのは7つの地域のたべもの委員会メンバー。自生ナタネをなかなか見つけられず、毎年苦労している。

2012年は9カ所を調査し、初めてバスタ耐性の陽性反応が、しかも3カ所に出たので驚いている。枚方市では淀川河川敷のセイヨウカラシナから、吹田市では住宅街空き地で見つかった。堺市では自生ではなく、道路の分離帯に植えられたナタネから陽性反応が出ているのが大変気になっている。今まで出なかった陽性反応が、なぜそこで出るのか理由が思い当たらない場所だった。汚染が広がっているのではないかと心配している。今後さらに調査地域を広げて監視活動を続けていきたい。

博多港にある製油業者と輸送業者にも訪問し、活動報告と協力をお願いをした。製油業者では、毎月1回港内の除草も含めて徹底的に清掃を行い、出入り業者には拡散防止のためにシートをかけることを指導しているとのこと。自分たちもできることは協力するということ。今までは協力がなかった。輸送業者には初めての訪問でもあり、まずは自分たちの活動についてお知らせした。汚染防止には業者との連携が不可欠であり、今後も関係づくりを続けていきたい。その他福岡県全体としては、陽性反応の出た4カ所の自治体を訪問し、関係づくり

2012年は18都道府県で415検体を調査し、名古屋港近くの国道沿いでラウンドアップとバスタの両方の耐性をもつセイヨウカラシナが見つかった。またこれまで陽性反応の検体が見つかったことのない内陸部で多くのGM検体が見つかり、今後も監視活動を継続していく。

2012年は1,747本を抜き取った。最近の傾向として、隠れGMと思われる個体や他のアブラナ科との交雑種と思われる個体が増えてきた。交雑種からも隠れGMが見つかった。



会場にはGMに反対する全国の団体からたくさんの参加者がかけつけ、熱心に報告に耳を傾けた

生活協同組合  
コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

毎年組合員と役員が協力して調査活動を行っている。組合員にはカタログを通して、調査活動の必要性やGM汚染の拡散状況を知らせており、1次検査の費用も組合員からのカンパ金によってほぼまかなっている。

2012年は9府県で84検体を採取し調査した結果、奈良県ではじめて5検体からバスタ耐性の陽性反応が出た。

2012年3月から5月にかけて、鹿児島港、中央港、名古屋港、四日市港、神戸港、宇野港、水島港、博多港の8港で調査を行い51検体を採取した。1次検査では陰性またはわずかに擬陽性を示す程度にもかかわらず、2次検査で陽性反応が出たもの(隠れGMナタネ)が2検体見つかった。

GMナタネの顕著な自生が認められる場所は、必ずしも輸入量が多い港ではない。輸入後に長距離輸送が行われるかどうかの影響している。輸送経路まで含めた管理のしくみの構築が必要と考えられる。

生活協同組合  
コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

生活協同組合  
コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

生活協同組合  
コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

生活協同組合コープ自然派事業連合

## 調査結果

出た検体数	3001142700402042
バスタ	3001142700402042

陽性反応を示す

# 2012年GMナタネ自生調査全国報告集会in福岡

# 広がる遺伝子組み換え ～汚染を止

## 基調講演

食の安全性は長年に渡って食ってきたという経験から判断される。したがって、GM体の安全性も同じことが言える。

GM技術を推進する科学者・研究者は、GM体を食品とする場合「実質的に同程度に無害である」という科学的な確信が持てる場合には、その組み換え体の安全

性については元の食品と同等と考えられる」という考えで安全性を評価することにした。「元の食品と同等と考えられる」と「安全」はイコールではない。

GM体の慢性毒性試験はしなくてよいことになっていく。動物による慢性毒性試験をしてもよく分からないから、動物愛護の観点からしないようになっていく。動物実験を飛ばして人が食べることになる。GMを食品に表示すると売れなくなるから表示させないという圧力が強く、ほとんど表示されていない。そのため人体にどのような影響が出るか、長期の追跡調査ができない。

科学者・研究者は「原子カムラ」と同じ構造で「組み換えムラ」を形成し、自分たちにとって都合のいいデータだけを取り入れている。慎重派を排除し、安全神話をつくり上げている。

### つくられた安全神話

GM技術は不確実？

遺伝子を組み換えるといっても、細胞の核の中にある遺伝子の一部を、目的の遺伝子と置き換えることはできない。ある生物から目的とする遺伝子を取り出し、別の生物の細胞に導入するだけ。どこに行くか分からない。遺伝子に他の生物の遺伝子を導入し、使えそうなGM体ができる確率は1億分の1程度というとても不確実な技術だ。

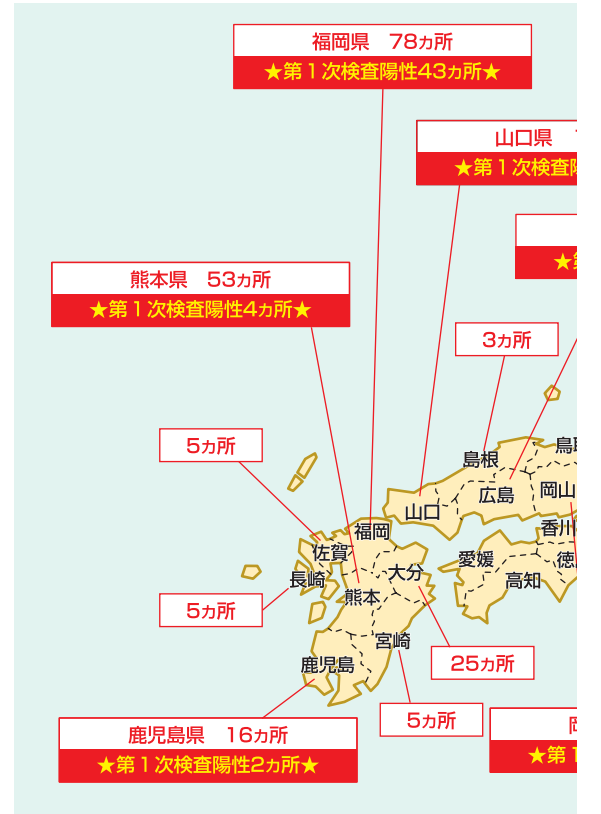
## 原発事故から見えた 遺伝子組み換え技術の問題点

京都学園大学 バイオ環境学部教授 金川貴博さん

私たちが想定外の事故に何度もあつてきた。水俣病やカネミ油症の危険性を具体的に予見することはできなかった。今回の原発事故も絶対に対処してはいけない事故だったが、防ぐことはできなかった。

GMについても、私たちの理解はまだ不十分だといえる。何が起るのかの想定が困難である。多くの科学技術について、ほんとうに安全なのかを見直すべき時期に来ている。

## グリーンコープ自生GMナ 自生調査地点数 <全24>



左からコーディネーターの天笠啓祐さん、パネリストの金川貴博さん、八田純人さん (農民連食食品分析センター)

## パネルディスカッション

### 隠れGMナタネ調査及び 交雑種調査から見えてくるもの

天笠 今年の自生GMナタネ調査報告では、GMナタネ汚染が広がっている感じがする。初めて見つかった場所がすごく多いのが今年の特徴。

八田 震災で港が津波に流されたため、GMナタネの輸送ルートが変わってきているところもある。これから大きな問題になっていくと感じている。

天笠 もう一つの今年の特徴は、GMナタネと他の植物との交雑が当たり前になってきていること。カランナとの交雑が各地で見られ、在来ナタネ、ブロッコリー、ハタザオガラン(雑草)との交雑が広がっている。農作物の汚染が心配される。

金川 交雑の例として、今まで飼料用のトウモロコシがGMだったが、トウモロコシの花粉は風で飛ぶので、スイートコーンなど私たちが食べるトウモロコシにもGMが入ってくる。このまままだ知らない間に食べてしまうことになるから非常に怖い。GM作物は、それぞれの品種ごとに安全性を評価しなければならぬ。

天笠 今年も3月にフィールド調査、4月に4日間自生GMナタネの抜き取りを行った。博多港はまだまだ清掃が行き届かずたくさんGMナタネが自生していた。9月には福岡県に対して意見交換を主とした勉強会を開催し、要望書を提出し、計画的な監視活動の強化実施と食の安心・安全条例の制定を要望した。要

九州で唯一のGMナタネ荷揚げ港である博多港を中心に2005年から調査を行っている。

2011年は3月にフィールド調査、4月に4日間自生GMナタネの抜き取りを行った。博多港はまだまだ清掃が行き届かずたくさんGMナタネが自生していた。9月には福岡県に対して意見交換を主とした勉強会を開催し、要望書を提出し、計画的な監視活動の強化実施と食の安心・安全条例の制定を要望した。要

の第一歩になった。

2012年も3月にフィールド調査を行った。支部委員会メンバーを中心に78カ所を調査し、箱崎埠頭を中心とした博多港、北九州市、新宮町、久留米市から陽性反応が出た。4月18日には自生GMナタネ抜き取りを行った。組合員をはじめ、ワーカーズ、米生産者、関係団体から52人が参加し、10,175本を抜き取った。今後も行政や企業との連携をさぐりながら取り組んでいきたい。

天笠 中部の会の報告で、自生GMナタネが世代交代を繰り返しているところ、隠れGMが多く見つかったという報告があったが、世代交代との関係はどうだろう。

八田 2つ疑いがある。一年を通して汚染が広がっている福岡や四日市などのように、自生ナタネ同士がそれぞれで交配し、隠れGMが増えていくという可能性。もう一つは日本に着いた時の種子自体がそういう遺伝子配列になっている可能性がある。未確定なGM技術を使っているのではないかと憶測もできる。

天笠 隠れGMをどうやって根絶できるのかをこれらの課題として突きつけられた。自生GM調査もおそらく新しい分野の対応を求められるようになると思う。こういう調査を続けながら、小さな声を集めて徐々に大きな動きをつくっていき

### GM技術とは

たとえば、除草剤を分解する性質をもった細菌から、その性質を表現させる遺伝子の一部を切り取って、切り取ったその遺伝子をナタネの細胞に導入することで、特定の除草剤を撒いても枯れないナタネを人為的に作り出すこと。

技術そのものの安全性や、それによってできたものの危険性、予測できないようなことが起きる可能性について指摘する専門家もいる。他の生き物や環境、人体への影響も懸念される。

### 日本は世界最大のGM作物の輸入国

現在栽培されているGM作物の多くは食用油の原料や家畜の飼料。食用油の大半がGM作物を原料に作られているが、「遺伝子組み換え」と表示する義務がないため、知らず知らずのうちに私たちの口の中に入っている。

### 2012年 グリーンコープ自生GMナタネ汚染

グリーンコープエリア	調査箇所数	1次検査で陽性反応が	
		ラウンドアップ	ノ
おおさか	9	0	
ひょうご	2	0	
(島根)	3	0	
おかやま	14	0	
ひろしま	10	0	
やまぐち	18	1	
ふくおか	78	17	(うち1は両方に反)
さが	5	0	
(長崎)	5	0	
くまもと	53	0	
おおいた	25	0	
かごしま	16	0	
みやざき	5	0	
合計	243	18	(うち1は両方に反)

「ラウンドアップ」「バスタ」は共に除草剤。遺伝子組み換えにより、これらの除草剤に耐性をもつナタネはこの検査で陽



# さようなら原発 10万人集会

2012年7月16日  
東京都 代々木公園



「さようなら原発一千万人署名市民の会」主催による「さようなら原発 10万人集会」が東京都の代々木公園で開催され、全国から17万人（主催者発表）もの人々が集まり、脱原発を訴えました。

これまで行われてきた脱原発集会の中でも最大規模のものとなり、市民の意志が大きくなるとなると脱原発に向かっていくことを実感する集会となりました。

グリーンコープも、「『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク（阻止ネット）」の一員として、共同体や各単協から組合員28人が参加しました。

## 集会

集会には、全国の市民団体、NGO、生協などのほかに、学生や幼い子どもを連れた母親など、若い層も多く見られた。ライブやトークイベント、大江健三郎さんや坂本龍一さんら呼びかけ人からのアピール、原発のある地域からのアピールなど、広い公園内のあちこちで多彩な催しが行われた。

グリーンコープ組合員も横断幕やゼッケンを作って参加した



おおい



やまぐち



くまもと



## パレード

集会後は3コースに分かれてパレードを行った。参加者は「命を守ろう」「原発反対」などのシュプレヒコールを上げながらおよそ3kmの道のりを歩いた。沿道からの声援も多く聞かれた。



## 阻止ネットからのアピール

グリーンコープ共同体  
代表理事 田中裕子さん

グリーンコープからは40万人の組合員を代表し、九州を中心とした各県から参加しています。私自身も佐賀県からの参加で、これまでずっと玄海原発に反対してきました。玄海では現在すべての原子炉が止まっています。佐賀の穏やかな自然、食べもの、きれいな水を子どもたちに手渡していきたいと思っています。今日集まっている沢山のみなさんの思い、私たちの



思いと共に、原発を止めるこの動きを大きくつくっていきます。  
あいこっぴみやぎ組合員  
原発を止めない限り、放射性廃棄物が生まれ続け、未来の子どもたちに負荷をそのまま残すことになりません。原発を止める行動を粛々と着実に進めていきます。



## 重茂漁協のアピール



大漁旗を掲げて参加

美しく豊かな三陸の海で生活してきた私たちは、東京電力の原発事故で、まさに生活を奪われる状態に陥っている。関東以北の広い範囲で肉、野菜、魚、その他多くの食べものから放射性物質が検出され、生産者は非常に苦しんでいる。この原発事故について、政府や東京電力の関係者は想定外の事故であると釈明に躍りになっているが、構造的な欠陥による事故であることは明らかだと思ふ。原発が安心・安全と言ふならば、田舎ではなく東京のど真ん中につくってもらいたい。  
※震災以前からグリーンコープの「三陸わかめ」を生産してきた岩手県重茂半島の漁協。せっけん運動にも積極的に参加している

(長崎)とみやざきでもはじまった

# 新しいお店共同購入



グリーンコープ共同体は、新しいお店のあり方として、注文した商品を自由な時間に取りに行ける預かり(キープ)と商品の購入のどちらも利用できる「キープステーション」を創り出す「お店共同購入」の取り組みを進めています。グリーンコープ生協(長崎)とグリーンコープ生協みやざきの様子を紹介します。

グリーンコープ生協(長崎) キープステーションいろは  
グリーンコープの キープステーションわかば  
商品がある憩いの場 キープステーションすまいる



入口にある「一言カード記入コーナー」組合員から寄せられた様々な意見等がボードに貼りだされている

キープステーションいろは

「いろは」のお店スタッフは久保美明さん、菅井邦子さんの2人。「わかば」は林ヨシ子さんと高橋祐子

これまでお店がなかった(長崎)では、物流センターの一画で行っていた「預かり(キープ)」から、商品も購入できる「キープステーション」を立ち上げることになった。2012年2月に長崎東センター内に「キープステーションいろは」が、4月には長崎西センター内に「キープステーションわかば」がオープン。6月には佐世保センターにも「キープステーションすまいる」がオープンした。

「いろは」では、スタッフを持つホームヘルパー2級やファイナンシャルプランナーの資格を生かし、必要があれば生活全般にわたるアドバイスをすることもある。グリーンコープの福祉や平和の取り組みなども伝えたい。「ここは地域のホットステーションです」と久保さん。



キープステーションわかば

「夕方6時半まで開いているので助かります」と受け取りに来た組合員

オープンの3ヶ月が経ち、利用者からこんなお話をしよう、こんなものも置いて欲しいなど、いろいろな声寄せられるようになってきた。まさにここは組合員の顔と名前が分かる「いろは」という大きな班。「いろは」の今後は組合員と試食しながら話し合う「いろはサミット」を計画中。「いろは」にみんな集まれ!みたいなね」と期待している。「わかば」では、商品の受け取りの間、子どもが退屈しないように、おもちゃを置いて、「ここに来た人が一息つけて、話をしたいけるような場にした」と林さん。



▼手作りの木の棚に商品が並んでいる

キープステーションすまいる

▲6月23日のオープンセミナーには、約350人が集まり賑わった

「わかば」のオープン企画として4週間、毎週取り組んだ「水曜日」は、地元の規格外の産直野菜を中心に販売し大好評だった。とにかく、まずは来て知って欲しいと考え、「わかば」「いろは」とも「水曜日」を定例で開催する予定だ。

## 「新しいお店」を展開していく基盤に

今までは生協に入りたくても時間の都合がつかなかった人が、商品を自由な時間に受け取りに行けるキープステーションならと加入した。さらに存在を多くの人に知らせ、キープを利用する組合員を増やし、少しでも早く採算がとれるようにしたいと関係者は考えている。

(6月初旬取材)

## グリーンコープ生協みやざき 動くキープステーション 安心・安全・げんき広場

グリーンコープ生協みやざきでは、「みやざきの仲間を増やし、利用を高めたい」という方針に沿って、「これまで県北地域の方からの商品利用の要望がありながらもエリア拡大できていなかった日向・延岡地域でキープステーションを展開できるよう検討を進めました。具体的には、配送車両を使って現地の拠点となる場所に一定時間滞在し



て商品の受け取りができる、いわば動くキープステーションです。名称はキープステーション「安心・安全・げんき広場」と決めました。グリーンコープの商品や情報を受け取るコミュニケーションの場になれるよう考えています。

5月9日初日は、宮崎支部にて出発式を行いました。当日は、支部長から経過の報告と、支部委員長からの「と皆さん喜んでいました。組合員同士の交流がはかれ、新しい仲間ができた事を実感できました。これからの組合員活動でも、キープステーション「安心・安全・げんき広場」にたくさんの方々が集まり、元気に集える場所となるよう盛り上げていきます。みやざき理事長 永野清美



No.48

## 事故での被害の実態

東京電力福島第一原発の事故により、周辺地域はもちろん、日本列島の広範囲に放射性物質がまき散らされたことで、人々は不安な毎日を送っています。

特に原発周辺の地域においては、子どもたちの遊び場が奪われ、家族は住むところを失いました。農家では、せっかく作った作物が出荷停止になるなどの被害が出ています。いのちのものになる食べものや地域そのものが放射能に汚染されて、故郷に帰ることすらできない人もいます。また、心ない差別や偏見により苦しんでいる人も多くいます。いつ元の生活に戻れるのか、その目途すら立っていません。

いったん事故が起きてしまった今、何世代にもわたり人々を苦しめる原発を廃止することは、未来の世代に対する私たちの責任であり、義務だといえるのではないのでしょうか。

参考文献 「知っていますか? 脱原発一問一答」 天笠啓祐 著

グリーンコープ共同体組織委員会

## 投稿募集中

- 400字程度
- A切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

わが家のエコ 私の好きなグリーンコープ商品

〒812-8561 福岡市博多区博多駅前1丁目5-1 ヒューリック博多ビル3F グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)「共生の時代」編集部 宛 FAX 092-481-7876 Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp



「はっぴい」のサポーターのみなさん。仕事をしながら空いている時間に活動している人も多い。(前列の左から境さん、加島さん、中武さん)

熊本県のほぼ中央にある益城町。2003年1月、有償ボランティアグループの「子育てサポートはっぴい」(以下、「はっぴい」)が産声をあげました。町が行った「保育サービス講習会」修了生の中の16人がサポーターとなり、子育てをがんばるお母さん、お父さんを応援することを目的に、思いを形にしたいと手探りで始めました。

グリーンコープ生協くまもと組合員で代表の加島理佐子さん、副代表の境ちえさんと中武千夏さんに話を聞きました。

### いま地域を考える

No.226

## 子育てサポート はっぴい



# 「喜び」と「感動」のある

# 活動を目指して

#### 子どもが好き

「はっぴい」代表の加島さんは、かつて共働きで子育てをしていた。夫も自分も仕事が忙しい時期、子どもが病気になる。仕事は休めないし、誰も預かってくれる人がなくて途方にくれた。職場近くの認可外保育所に事情を話すと「私に任せてください」。その温かい言葉に救われたが、子育ては一人でできないと痛感した。

「はっぴい」のサポーターは、保育士を中心に幼稚園・小学校教諭、調理師などで構成。当時は子育て真っ最中の人、一段落した人など様々だった。

加島さんとサポーターの共通する思いは「地域の子育ての役に立ちたい」、そして何よりも、「子どもが声」が寄せられた。

#### 求められるサービスは

「はっぴい」を立ち上げるまで、益城町には子育てをサポートするグループはなかった。立ち上げる前に、子育てをしている保護者はどんなサポーターを求めているのかを知るため、保育所や幼稚園、乳幼児サークルの保護者を対象にアンケート調査を行った。その結果、託児を利用したいと答えたのは、380人中269人に達した。意見として「パートをしていて、土日祝日などに預けるところがないと助かる」「近所に身内がないので、自分が病気になる時に困った」など、様々な託児ニーズを求められていることがわかった。

アンケートの結果を受け、保護者の声にこたえるために四つの事業を行うことにした。

- ① 託児室での一時預かり
- ② サポーター宅での一時預かり
- ③ 訪問ベビーシッター
- ④ イベントなどの出張託児



イベントの出張託児をしている様子

### 2012年6月の組合員数 385244人 (6/20現在)

<b>リユースリサイクルデータ</b> 2012年5月分 回収本数 825,273本 回収率 100.5% <small>(4月15日～5月19日回収分)</small>	<b>牛乳びん</b> 回収本数 825,273本 回収率 100.5% <small>(4月15日～5月19日回収分)</small>	<b>フードマイレージ</b> 2009年9月から2012年6月までに組合員の利用によってたまったのは <b>182,360,352.1</b> <small>CO2に換算して18,236トン削減したことになります</small>
<b>リユースびん</b> 回収本数 197,880本 回収率 77.6%	<b>トレー</b> 回収重量 7,904kg 回収率 46.8%	<b>アジア民衆基金</b> 2009年4月から2012年6月までに組合員の利用によってたまったのは <b>24,021,899円</b>
<b>モールドパック</b> 回収重量 31,160kg 回収率 88.3%	<b>仕分け袋</b> 回収重量 1,521kg 回収率 8.5%	

放射能汚染測定結果は、別紙の残留放射能検査結果に掲載しています。

＜お詫びと訂正＞  
7月号6・7面の写真の説明「長崎東センター内の『キープステーションわかば』」は「長崎西センター内」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



子どもたちが、安心して楽しく遊べるよう見守る

リーフレットに掲載している4コマまんがサービスの内容を分かりやすく紹介



早速、事業内容を書いた手作りのリーフレットを持ち、益城町の保育所、幼稚園、小学校に挨拶。各家庭にはポステイキングをし、PRに努めた。

サポーターみんなで1万円ずつ出資し、会員登録した利用者の会費を合わせて準備金とし、利用料金の一部を運営費に充てた。事業に必要なおもちゃや布団などは、たくさんの人に寄付を呼びかけ集めた。「そんな時、グリーンコープの福

活動している中で、こういうエピソードがあった。「2人目の出産が間近なお母さんが1歳9カ月の子どもを預けにきた。今まで他人に預けたことがなく、子どもと離れる際もお母さん

10年の活動、そして夢  
また、利用者から、「1人目の時に『はっぴい』を知っていたら仕事を辞めなくて済んだ」「仕事の面接を安心して受けられ助かった」「1カ月間、訪問ベビーシッターで産後の沐浴を

依頼したが、子育ての話や不安なことを聞いてもらえ、気持ちに楽になった」などの感想が出されている。立ち上げて10年経った現在は、イベントなどの出張託児や、新しく児童保育所の障がい児のための指導員補助、保育所の保育士補助などの仕事が増えた。「はっぴい」に預けてよかった」と言ってもらえるよう、喜びと感動を与えられる活動を目指して取り組んできた。

「今後は、社会的にも認知されるNPO法人格取得に向けて準備をしていきたい」という加島さんの抱負に、副代表の境さんと中武さんも大きく頷く。「はっぴい」は、次のステップへと歩みだそうとしている。





その①のつづき

Table with 15 columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法, ヨウ素-131, セシウム-134, セシウム-137. Rows include various food items like fish products, tea, and processed goods with their respective radiation test results.



